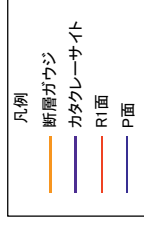
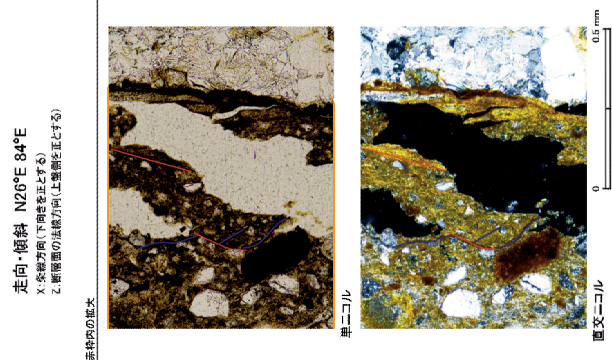
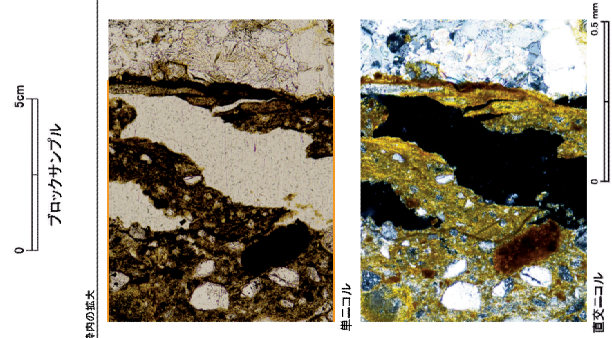
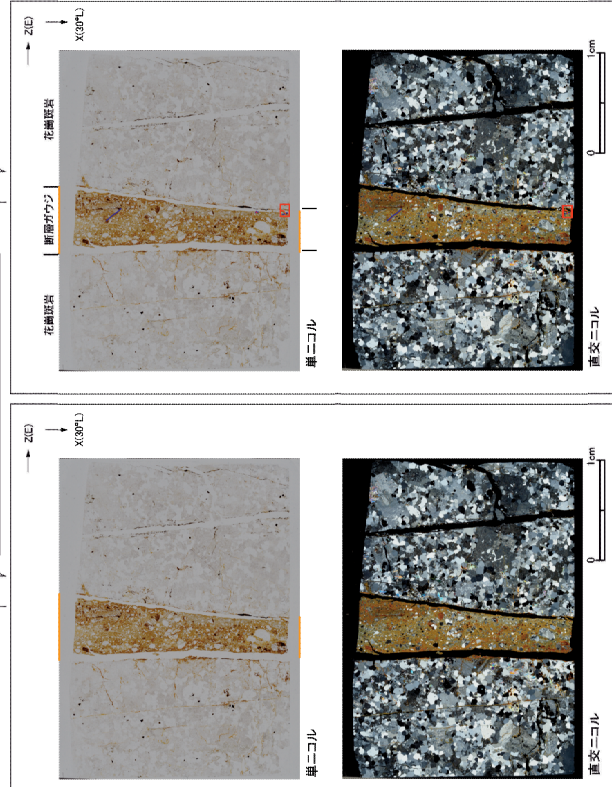
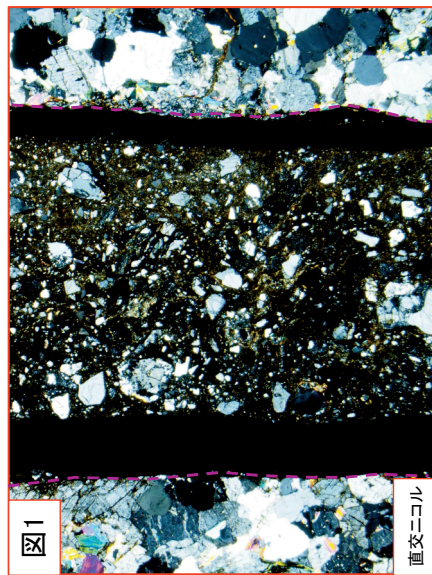
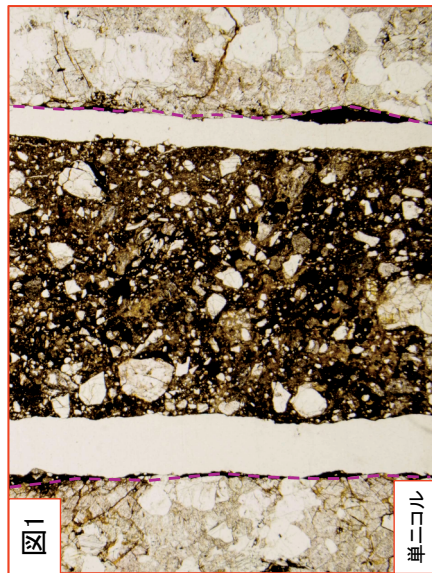


・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれを伴う正断層である。
 ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。
 ➢ (断層ガウジ)せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 ➢ (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
 ➢ (断層ガウジ)粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 ➢ 岩片は少ない。
 ➢ (カタクレーサイト)角ばった岩片が多い。
 ➢ (カタクレーサイト)岩片の粒界を横断する破断面が認められる。

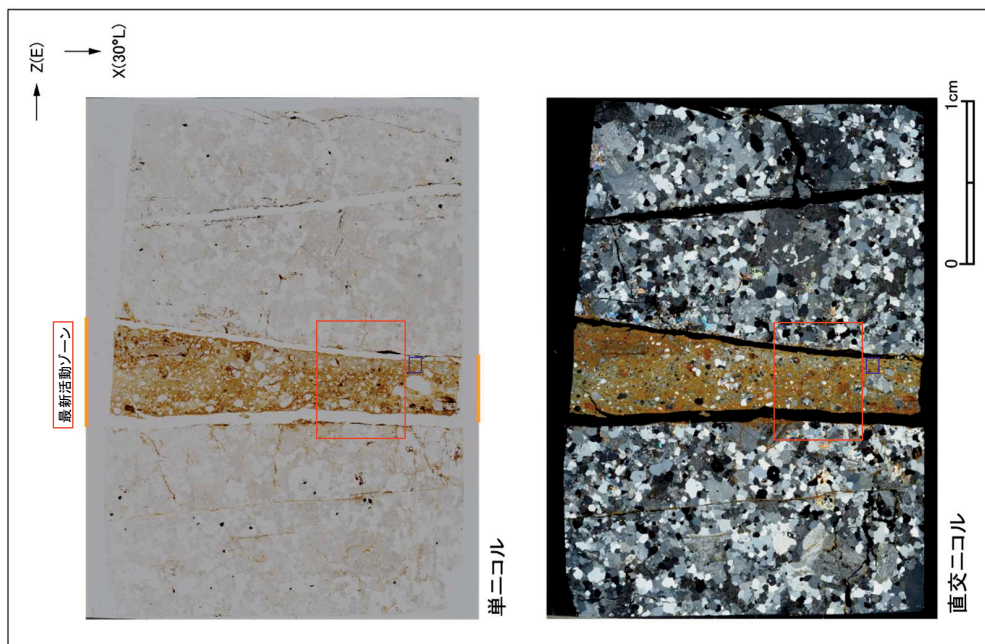
※断層面 α は最新活動面



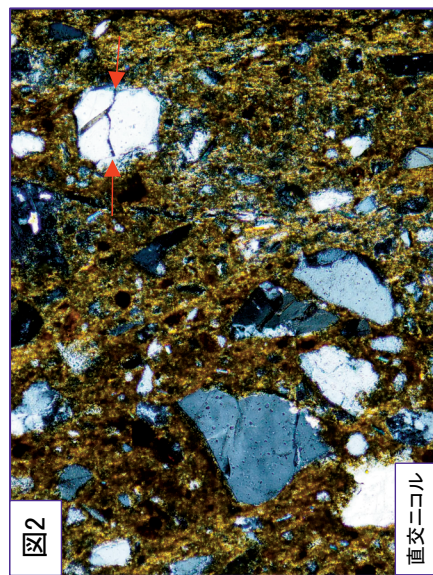
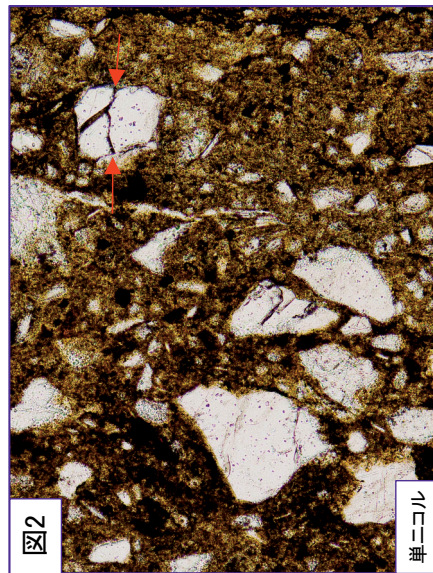
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図2)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図2)



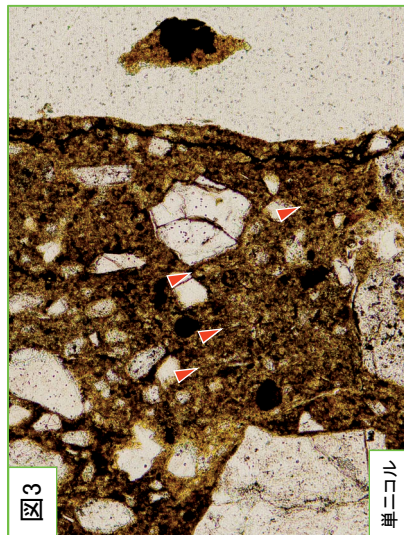
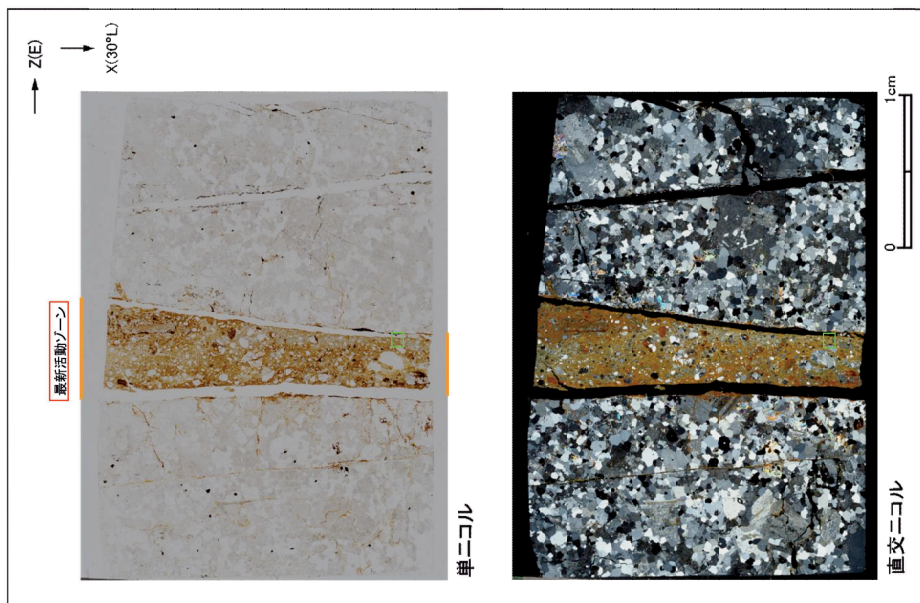
破線は粘土状部の分布範囲を示す



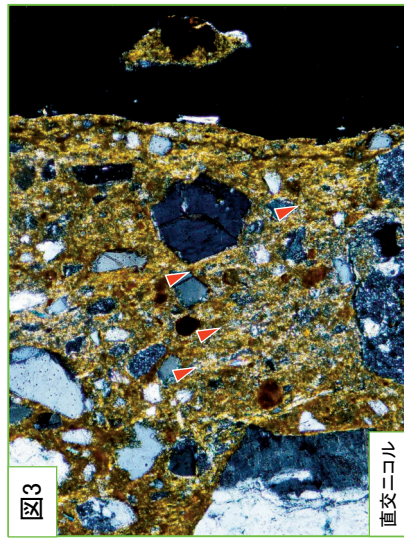
赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す



最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 > せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図3)



赤三角の方向は粘土鉱物の配列方向を示す



(肉眼観察結果 深度88.42m)

- 肉眼観察では、粘土状部は軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
 - せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - 岩片は少ない。
- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。
 - 角ばった岩片が多い。
 - 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。

最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトに断層ガウジに取り込まれたものと考えられる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された軟質な粘土状部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・ 断層角礫の有無	断層ガウジ・ 断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・ 変形構造 *
有	0.5	無

*:断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「一」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

・深度88.88～88.92mの「粘土・砂混じり岩片状」と記載の箇所については、硬質で、含まれる細粒部は局部的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からカタクレーサーサイトであると判断した。

・深度88.92～88.94mの「礫混じり粘土状」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片から断層ガウジであると判断した。

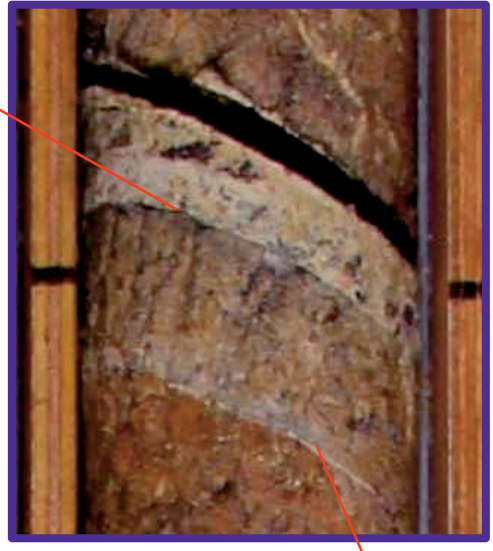
ボーリング柱状図

●88.88～88.94m：破碎部
 88.88～88.92m：粘土・砂混じり岩片状部 (Hj)
 傾斜30°で、上端は幅0.5mmの軟質な白色粘土脈で直線的に、下端も直線的に連続。下位のHc-2の粘土と同方向に細かい割れ目が発達し、径5mmの岩片に細片化している。岩片間は幅1mm以下でごく薄く粘土～砂状化する。にぶい黄褐色を呈する。幅25～35mm。
 88.92～88.94m：礫混じり粘土状部 (Hc-2)
 傾斜30°で、上下端とも直線的に連続。径1～3mmの石英粒、径5mmの粘土化岩片を計15%含む。軟質。灰白色を呈する。幅15～20mm。

コア写真



連続性及び直線性が良い細粒部



細粒部は局部的に分布する

・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

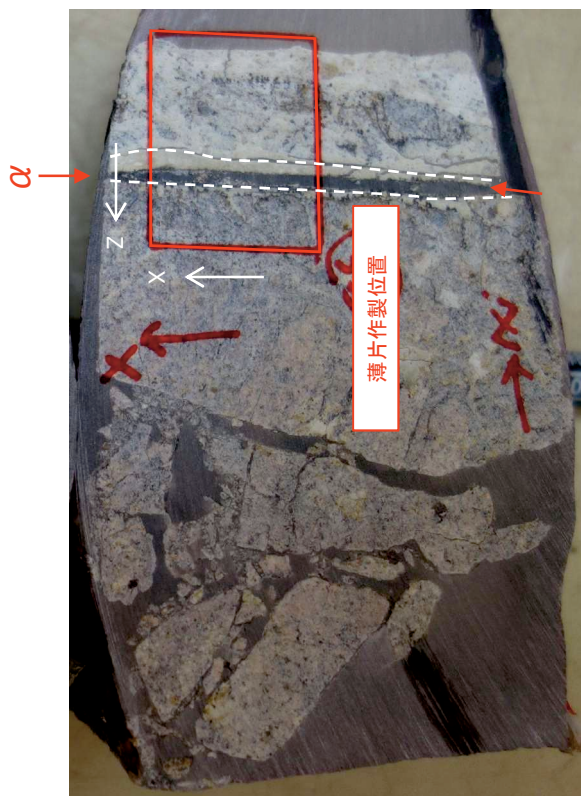
コア写真



※断層面 α は最新活動面



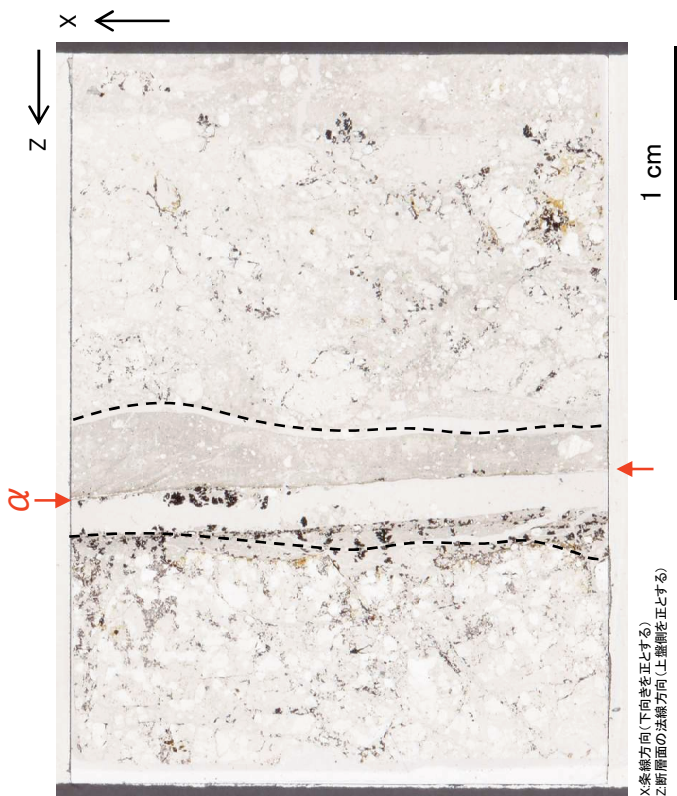
薄片作製位置写真



X: 糸線方向(下向きを正とする)
 Z: 断層面の法線方向(上向きを正とする)
 ※: 写真上は白色又は黒色で記載



薄片全景写真(単ニコル)



X: 糸線方向(下向きを正とする)
 Z: 断層面の法線方向(上向きを正とする)